夜間学校ニュース

1989年 9月22日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ケ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の指紋押なつ拒否断固支持！

定住外国人に市民権を！

釜ケ崎夜間学校

毎週金曜日
夜七時より
市民館三階

みんなで つくろう
みんなの 会館

三人よれば 何とかの 知恵

二セ印紙騒ぎ その影響は…

二セ印紙、裏にノリ付きでないものが出回っているらしい。使わわたものには、スタンプまで偽造して押してあったものまであったという。

警察で、二セの印紙やスタンプが使わわていた手帳と確認したのは、いまのところ二十数通という。この手帳を、半年かけてさがしているが、一人もみつかっていないそうだ。

どうも、組織的、計画的な犯罪のようだ。

二セ印紙はとてもよくできているらしく、職安の日常業務の中では判別することがむつかしいもののようだ。

そこで、十月一日から、印紙の図がう、色など、がラリとかわることとなる。

二セ印紙追放だけでなく、ダブついて流通している印紙をこのさい一掃してしまおうというねらいもあるようだ。

アブレ手当の受給にまつわる不正が話題になると、なんとなくイラつく。本当の不正は、許せない。しかし、釜には、生活保護を受けるほどではないが、仕事だけでは喰うことができない仲間がいる。そんな仲間を救うことができないのは、現在の社会のケンカンだ。印紙切替でどのような影響がでるのだろうか。

仲間の死

本籍、住所、氏名不詳、40～50歳位の男性、身長165センチ、中肉、丸刈り、着衣パッチに（堀川「和」）の記名入、遺留金品なし

右の者は、昭和62年8月15日午後9時39分頃、西成区萩之茶屋1－3愛隣センター西側路上にて発見されたもので、同日午後8時（推定）同所において死亡したものと思われる（死因不詳検案中）。

身柄引取人不明につき、検視解剖のうえ北斎場にて火葬に付した。

もぐりあっせん摘発

1万6000人 2億5000万円ピンハネ

神奈川

神奈川県警捜査四課と横浜南署は十八日までに、一年間に約一万六千人の日雇い労働者をもぐりで建設会社などにあっせんしたうえ、職業安定所から多額の失業保険金をだまし取っていた手配師グループの横浜市中区山元町一〇七、暴力団組長岩野鉄郎(五七)を労働者派遣法違反容疑で、岩野の配下の同区寿町三、会社員木村道人(六四)ら作業員七人を詐欺容疑で、それぞれ逮捕した。岩野は、派遣した労働者の賃金約二億五千万円をピンハネしたと同県警はみている。

岩野の直接の容疑は、今年六月ごろ、木村らを使い、横浜・寿町の簡易宿舎街に集まる日雇い労働者ら約六十人を労働省の認可を得ず、同市内の建設現場などに作業員として派遣した疑い。作業員の日給は平均一万数千円だが、岩野は三分の一をピンハネしていた。

また、岩野は手配師の木村を使って、あっせんした労働者に日雇い労働被保険者手帳を作らせ、ニセの就労印紙をはらせ、昨年七月ごろから今年三月にかけて横浜港公共職業安定所で一人約五十万円前後の日雇い労働休職給付金（失業保険金）を不正請求させた。延べ七十人の名前で約五千万円をだまし取り、一部をピンハネしていたとみられ、同課は近く岩野を詐欺容疑で再逮捕する方針。

岩野らは昭和六十年ごろから一日五十人余の労働者をバスなどで派遣し、延べ五万人をあっせんしていたとみられる。同捜査四課ではピンハネした金は暴力団の活動資金にしていたものとみている。

◀一九八九年九月一八日毎日新聞

人件費、人手不足に悲鳴

列島'89

▼ニュータウン開発

兵庫県三田市

人口増加率が全国一（昭和六十二年十月からの一年間に一一%増）の兵庫県三田市で猛烈な建設ラッシュが続いているが、建設労働者の高齢化などに伴う深刻な人手不足で、業者は人件費高騰と人材確保難に悲鳴をあげている。

兵庫県と住宅・都市整備公団が開発を進める「北摂三田ニュータウン」は、県が開発する「フラワータウン」と住都公団の「ウッディタウン」、工業団地の「テクノパーク」（十四社が操業中）からなる。既に一万五千人が入居。県が開発、平成四年春に入居開始予定の「カルチャータウン」と合わせ、入居が完了する平成十二年の計画人口は八万八千人。

県、公団の宅地造成や住宅建設に三田市の道路整備などを加えたニュータウン関連の公共工事に投入される費用は年間約三百億円。

しかし、神戸電鉄公園都市線の乗り入れに備えて来春完成を目指し、現在進行中のフラワータウン駅ビル建設や公園整備などの工事は軒並み遅れがち。

ニュータウン関連の業者が地元の労働力をごっそり持っていくためで、業者は、作業員の日当を増額するなど、人手確保に躍起。

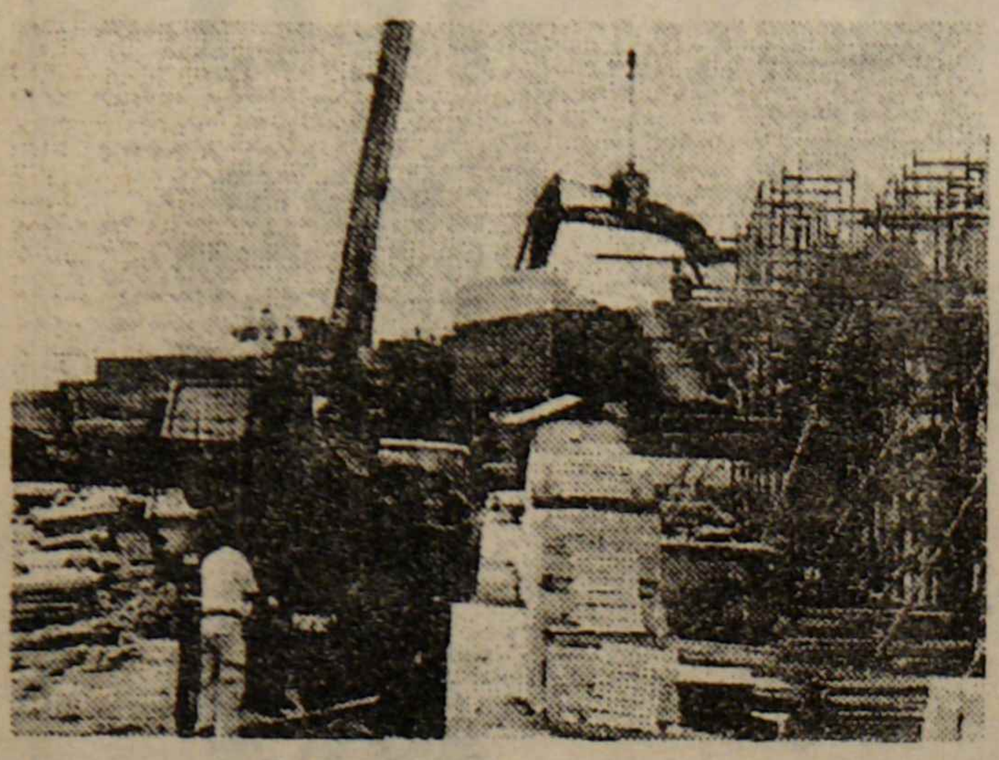
ある業者は「市が工事を発注する際、見積もりの目安にする国の協定単価は、熟練職種の型枠工の場合、一日一万四千七百円。ところが、実際に支払っている日当は二万四千円。こうでもしなければ人が集まらない」と嘆く。他の業者は、日当三万五千円、旅館代一万五千円を払って型枠工を確保、ようやく工期に間に合わせた、という。

人手不足の背景には、若年の建設労働者の減少がある。労働省特別雇用対策課によると、建設業界の就業者のうち三十歳未満は八十三万人で全体の約一五%。昭和五十年度はこの構成比が約二八%だった。若年層の新規就業が急速に減少しているのだ。

「わざわざ現場作業をしなくても、他にいくらでも働き口がある」と言う若者が増える中、今後、建設の担い手をどう確保するのか、ニュータウンのツチ音の背後に建設業界が抱える構造的な悩みが見え隠れする。

（神戸支局三田駐在・山崎一樹）

新しい街づくりが進む兵庫県三田市のウッディタウン＝同市あかしあ台で



◀一九八九年九月一八日毎日新聞

在日韓国人 地位改善を

民団、市議会に陳情

民団大阪地方本部（崔漢柄団長）は十三日、在日韓国人の法的地位・待遇の改善や差別解消を求める意見書を大阪市議会が採択するよう、多賀谷宏議長に陳情した。

陳情の内容は、①日韓両国政府間の協定により永住権を持っている人の子孫らにも永住権を②地方選挙権をはじめ、日本国民と同等の待遇を③自治体職員や教員の採用も含め、国籍による就職差別の解消④指紋押捺（おうなつ）制度の廃止を含めた外国人登録法の改正――などの八項目。

現在、日韓両国政府間で在日韓国人の法的地位と待遇に関する協定をめぐり、協議が行われているが、現行の協定は在日韓国人の実態に合わなくなっているとして、民団は改善を求める運動を全国で繰り広げている。今回の陳情もその一環で、府議会にも十八日、陳情する。

◀一九八九年九月一四日朝日新聞

人手不足で人件費高騰と新聞によく書かれているが、日当を受取る我々は、あんまり、高給取りになったような気がしない。夏、冬のボーナスがないのだから、もう少し欲しいぐらいのものだ。

九月二〇日の読売（夕）に、「あいりんでニセ印紙」とデカデカ書いていたが、右上の記事によると、寿、関東方面でも出回ってるようだ。泣かされるのは労働者。

頼りは年末の宝くじだけか。

難民が押しよせる日本、世界に通用する「市民権制度」は、一刻も早く確立されるべきだ。

◀一九八九年九月一三日読売新聞（夕刊）

ついに登場 1億円宝くじ

年末ジャンボ

1等と前後賞を合わせると1億円という史上最高の賞金額となる「年末ジャンボ宝くじ」が誕生し、10月18日から全国で予約受け付けが始まる。1等賞金はこれまで最高の6000万円で同じだが、前後賞が1500万円から2000万円となるため、賞金額が1億円に達した。1等は240本。

宝くじの発売期間は11月27日から12月18日まで。抽選は、12月31日。東京・宝塚劇場で行われる。問い合わせは、予約センター（☎03―502―3771）へ。